Love Fashion: In Search of Myself

PRESS RELEASE

LOVE ファッション—私を着がえるとき
Love Fashion: In Search of Myself

会期：2024 年 12 月 21 日（土）～ 2025 年 3 月 2 日（日）
会場：熊本市現代美術館
主催：熊本市現代美術館［熊本市、公益財団法人 熊本市美術文化振興財団］、
公益財団法人 京都服飾文化研究財団、熊本日日新聞社

「愛」とオーランドーは言った。ただちに――〈愛〉は恐ろしくせっかちだから――〈愛〉は人の姿をとって現れた――〈愛〉は傲慢である。他の観念なら抽象のままで満足しているのに、この〈愛〉という奴だけは、生身の人間になってケープやスカート、ズボンに上着を着けずには気がすまない。

ヴァージニア・ウルフ『オーランドー』（杉山洋子訳、ちくま文庫、1998 年）

展覧会概要

熊本市現代美術館と京都服飾文化研究財団（KCI）は、2024 年 12 月 21 日（土）から 2025 年 3 月 2 日（日）まで、特別展「LOVE ファッション―私を着がえるとき」を開催いたします。
服を着ることは人間の普遍的な営みのひとつです。そして装いには私たちの内なる欲望が潜み、憧れや熱狂、葛藤や矛盾を伴って表れることがあります。お気に入りの服を着たい、あの人のようになりたい、ありのままでいたい、我を忘れたい……。
服着る人のさまざまな情熱や願望＝「LOVE」を受け止める存在としてのファッション。そこには万華鏡のようにカラフルな世界が広がっています。
本展では、KCI が所蔵する 18 世紀から現代までの衣装コレクションを中心に、人間の根源的な欲望を照射するアートとともに、ファッションとの関わりにみられるさまざまな「LOVE」のかたちについて考えます。展覧会を通して、私たち人間が服を着ることの意味について再び考えるきっかけとなるでしょう。

京都服飾文化研究財団（KCI）について

1978 年に創立した京都服飾文化研究財団（KCI）は、17 世紀から現代までの服飾資料約 1 万 3 千点、文献資料約 2 万点を所蔵。その中には 1 千セットに及ぶコム デ ギャルソンからの寄贈品をはじめ、クリスチャン・ディオール、シャネル、ポール・スミス、ルイ・ヴィトンなど、現代を代表するブランドからの寄贈品も含まれています。収蔵品は展示に耐えられるよう、熟練した専門家によって補強を目的とした補修も実施されています。また、文化資源としての衣服の研究とともに、社会的な様々な要因と密接につながっているファッションを学際的な視点にたち、常に新しい社会の動向に目を配りながら研究しています。その成果は、展覧会、出版、講演などの形でひろく公開しています。1980 年には「浪漫衣裳展」を京都国立近代美術館と共催し、「美術館における衣装展」という分野を日本でいち早く普及、発展させてきました。社会、文化、アートの諸問題とも結びつくテーマを取り上げ、衣服だけにとどまらない、現象としてのファッションの展示を目指す KCI の試みは高く評価され、企画した展覧会はパリ衣装芸術美術館（ルーブル宮）や NY クーパーヒューイット国立デザイン美術館、ドイツ連邦共和国美術展示館など、世界を巡回しています。

熊本市現代美術館では、「ファッション―時代を着る」（2011 年）、「ドレス・コード？―着る人たちのゲーム」（2019–2020 年）に続き、本展「LOVE ファッション―私を着がえるとき」（2024–2025 年）が、5 年ぶり 3 回目の共催となります。

見どころ

衣服から装飾品、アートまで　総出品点数 約 160 点

京都服飾文化研究財団（KCI）の豊かなコレクションより選ばれた、18 世紀から現代までの様々な衣服約 100 点、装飾品 20 点を中心に、アート約 40 点を加え、約 160 点の作品で本展は構成されています。熊本会場は、開催中の京都会場（9 月～ 11 月、京都国立近代美術館）とほぼ同じ規模での巡回です。さらに、トモ・コイズミのジャンプスーツなど、京都会場では出品されていなかった作品が、熊本会場から登場します。

＊京都会場で出品された一部の作品との入れ替えでの出品です。

トモ・コイズミ（小泉智貴）　ジャンプスーツ　2020 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛

本展のための新作アート

ファッションを取り上げる本展に際し、アートの作家は企画内容を受けて新作を加えています。個展・グループ展が相次いで開催されている原田裕規は、近年取り組んでいるハワイ在住の日系アメリカ人をモデルにしたデジタルヒューマンの映像作品「シャドーイング」を出品。代表的な「トミゴロウ」に加え、「リエ」と「イザベラ」の 2 人が本展では新たに登場しています。「リエ」は、熊本出身の服飾研究者であるバーバラ・F・川上の『ハワイ日系移民の服飾史』が底本に用いられ、日本語方言パートの字幕には熊本弁が用いられています。インタビューをもとに絵画を描く松川朋奈は、シリーズ「Love Yourself」の 1 点に加え、本展のために、新作 4 点を発表。全 5 点は、時代や人物を超えて一つの物語のようにも読める構成となっています。AKI INOMATA は、シリーズ《やどかりに「やど」をわたしてみる –Border–》のうち、樹脂の「やど」、「ラ・リューシュ、パリ」が新たに制作しました。

原田裕規　《シャドーイング（リエ）》2024 年　作家蔵　© Yuki Harada

ファッションを楽しむ多彩なコラボレーション

熊本市現代美術館と同じビル 1F にあるホテル日航熊本のティー & カクテルラウンジ「ファウンテン」では、会期中に特別なケーキセット「LOVE DRESS ～ラブドレス～」と 2 種類のカクテル「BERRY」「FLOWER」が提供されます。さらに㈱フェリシモと KCI のコラボレーションによる扇子や傘、ハンカチといったグッズも当館内アートラボマーケットで販売します。

関連イベントでは、熊本市動植物園を会場に鳥の羽や葉など動植物の一部を素材として用いるワークショップや、㈱ルシアンの刺繍キット「100 ネエサン」* をベースにした、いつでも参加できるワークショップも開催。

展覧会を観るだけではないファッションを楽しむ機会を提供します。

＊「100 ネエサン」は㈱ルシアンの登録商標です

ホテル日航熊本のティー & カクテルラウンジ「ファウンテン」によるケーキセット「LOVE DRESS ～ラブドレス～」、カクテル「BERRY」「FLOWER」

会場構成

Chapter 1. 自然にかえりたい

人類最初の衣服は、自然界からもたらされました。その記憶を引き継いでいるのか、私たちは毛皮の肌触りと温もりに酔いしれ、鳥の羽根で着飾り、色とりどりの花々に身を包みます。文明や技術が高度に発達した今日においても、自然に対する憧れや敬愛、身にまといたいという願望から多種多様な衣服が生み出されています。本展の始まりを飾るチャプターとして、歴史の各時代に現れた動物素材や植物柄のファッションを展示。華やかな花柄が刺繍された 18 世紀の男性用ウエストコート、20 世紀前半に流行した鳥の羽根やはく製が飾り付けられた帽子、毛皮不使用や環境保護を標榜するエコファーのコートなどに加えて、人間の毛髪を素材とした小谷元彦の作品を展示します。

ドレス（ローブ・ア・ラ・フランセーズ）
1775 年（素材は 1760 年代）　© 京都服飾文化研究財団　撮影：畠山崇

Chapter 2. きれいになりたい

日々、美への憧れや挫折に翻弄される私たち。顔より大きく膨らんだ袖、締め上げられて S 字型になったウエスト、歩きにくいほどに広がるスカート。「きれいになりたい」という願いは、ときに偏執的ともいえる造形への欲望を伴い、衣服の流行をつくりあげてきました。このチャプターでは、19 世紀の身体美の要を担ったコルセットや、布地の芸術作品として卓越した造形で魅惑するクリストバル・バレンシアガなど 20 世紀中葉のオートクチュール作品を中心に展示。ヨウジ・ヤマモトやジル・サンダーなどの彫刻的な現代ファッションとともに、衣服のかたちに現れた多様な「美しさ」の創造力をご紹介します。

コルセット　1870 年頃　© 京都服飾文化研究財団撮影：畠山崇

Chapter 3.　ありのままでいたい

社会の中で様々な役割を担いつつ生きる私たちの、「ありのままでいたい」という願望。遠く 18 世紀に自然主義を唱え、「ありのままの自己」の表現を希求したジャン＝ジャック・ルソーの理想は叶わぬ夢なのでしょうか。このセクションでは 1990 年代以降にプラダやヘルムート・ラングらが牽引した、自然体のリアルな体を主役にするミニマルなデザインの服や、ミニマル・ファッションの究極系とも表現できる、いわゆる「下着ファッション」を中心に展示。展示された服たちは、身近な友人との日常を切り取ったヴォルフガング・ティルマンスの写真や、現代社会を生きる女性のリアルを描写した松川朋奈の絵画と響き合います。

プラダ（ミウッチャ・プラダ）　スリップ　1998 年　© 京都服飾文化研究財団　撮影：畠山崇

Chapter 4.　自由になりたい

国籍や階級など、様々なアイデンティティにより形成される「私らしさ」。そんな「らしさ」のお仕着せから逃れたい願望は、ときに衣服に託されます。ヴァージニア・ウルフは小説『オーランドー』（1928 年）において、300 年の時の中で性や身分を越境する主人公の変身譚を、度重なる衣服を「着がえる」描写とともに著しました。このチャプターでは、アイデンティティの変容を描いた本作に触発されたコム・デ・ギャルソン 2020 年春夏コレクション、コム・デ・ギャルソン オム・プリュス 2020 年春夏コレクション、川久保玲が衣装デザインを担当したウィーン国立歌劇場でのオペラ作品《Orlando》（2019 年）の「オーランドー」三部作を一挙に紹介。異なる時代に制作された文学と衣服に通底する、アイデンティティの物語への普遍的な問いかけを探ります。

コム デ ギャルソン（川久保玲）　トップ、パンツ　2020 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛

Chapter 5.　我を忘れたい

こんな服が着てみたいという願望、あの服を着たらどんな気持ちだろうという期待、はたまた欲しかった服に袖を通したときの高揚感。トモ・コイズミによるフリルとリボンを用いたモビルスーツのような愛らしい作品や、ロエベによるまるで唇に私の身体が乗っ取られてしまったかのような作品たちは、こうした服を着ることの一瞬のときめきや楽しさを伝えてくれます。服は私たちに魔法をかける（服が私たちを魅了する）。ただ、そんな服もある瞬間には急に色褪せてみえ、私はまた別の新しい服を求めてしまいます。AKI IMONATA の《やどかりに「やど」をわたしてみる》に登場する「やど」を着替えるヤドカリたちに、私たちは人間の際限のない欲望の姿を仮託し、あるいはより深い生物の本能のつながりをみているのかもしれません。

トモ・コイズミ（小泉智貴）　ジャンプスーツ　2020 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛

主な出品アーティスト

ファッション：Alexander McQueen（アレクサンダー・マックイーン）、Balenciaga（クリストバル・バレンシアガ、デムナ・ヴァザリア）、Bottega Veneta（ダニエル・リー）、Céline（フィービー・ファイロ）、Chanel（ガブリエル・シャネル、カール・ラガーフェルド）、Christian Dior（クリスチャン・ディオール、ジョン・ガリアーノ）、Comme des Garçons（川久保玲）、Comme des Garçons Homme Plus（川久保玲）、Gaultier Paris by sacai、Givenchy（アレクサンダー・マックイーン）、Gucci（トム・フォード）、Helmut Lang（ヘルムート・ラング）、House of Worth（ジャン＝フィリップ・ウォルト）、J. C. de Castelbajac（ジャン・シャルル・ド・カステルバジャック）、Jil Sander（ラフ・シモンズ）、Junya Watanabe（渡辺淳弥）、Kostas Murkudis（コスタス・ムルクディス）、Loewe（ジョナサン・アンダーソン）、Louis Vuitton（マーク・ジェイコブス）、Mame Kurogouchi（黒河内真衣子）、Maison Margiela（ジョン・ガリアーノ）、Nensi Dojaka（ネンシ・ドジョカ）、Noir Kei Ninomiya（二宮啓）、Noritaka Tatehana（舘鼻則孝）、Pierre Balmain（ピエール・バルマン）、Prada（ミウッチャ・プラダ）、Ryunosukeokazaki（岡崎龍之祐）、Somarta（廣川玉枝）、Stella McCartney（ステラ・マッカートニー）、Thierry Mugler（ティエリー・ミュグレー）、Tomo Koizumi（小泉智貴）、Viktor&Rolf（ヴィクター・ホスティン、ロルフ・スノラン）、Madeleine Vionnet（マドレーヌ・ヴィオネ）、Yohji Yamamoto（山本耀司）、Yoshio Kubo（久保嘉男）ほか

アート：AKI INOMATA、ヴォルフガング・ティルマンス、小谷元彦、笠原恵実子、澤田知子、シルヴィ・フルーリー、原田裕規、松川朋奈、横山奈美

関連イベント

1.［トーク］原田裕規「影としての私自身／影を追う旅について」

日時：2024 年 12 月 21 日（土）14:00–15:30

場所：熊本市現代美術館 ホームギャラリー

講師：原田裕規（出品作家）

原田裕規｜Yuki Harada・・・1989 年、山口県生まれ。2016 年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了。とるにたらない視覚文化をモチーフに、テクノロジーやパフォーマンスを用いて、社会や個人の本性（ほんせい）を「風景」や「自画像」のかたちで表現している。2012 年に「ラッセン展」の企画でデビューし、議論喚起型のプロジェクトからその活動を開始。2019 年以降は断続的にハワイに滞在し、ピジン英語に代表されるトランスナショナルな文化的モチーフに着目している。

2.［ワークショップ］藤谷香子 ①「わたしの解剖」②「わたしの拡張」

日時：① 2025 年 2 月 8 日（土）13:30–15:30 ② 2025 年 2 月 15 日（土）13:30–15:30

場所：① 熊本市現代美術館 ホームギャラリー ② 熊本市動植物園 いきもの学習センター（熊本市東区健軍 5-14-2）

講師：藤谷香子（衣裳家）

対象：どなたでも

定員：先着 20 名　＊要事前申込

申込：ウェブサイトの申込フォームより

藤谷香子｜Kyoko Fujitani・・・快快（FAIFAI）所属。多摩美術大学在学中より衣裳家として活動。国内外の舞台作品の他、オペラ、音楽、現代美術など他分野の作家作品に参加。近年では岡田利規の演劇作品、金氏徹平の現代美術作品、角銅真実、中村佳穂など音楽家へのスタイリング、岡田利規演出オペラ『夕鶴』、上田久美子演出オペラ『田舎騎士道（カヴァレリア・ルスティカーナ）』『道化師』、近藤良平 × ハナレグミ「great journey」シリーズに参加。

①「わたしの解剖」

「LOVE ファッション」の 5 つの章（「自然にかえりたい」「きれいになりたい」「ありのままでいたい」「自由になりたい」「我を忘れたい」）について話をしながら、自分自身の内なる欲望や願望をカウンセリング。その「欲」をもとにファッションアイテムを作成し、実際に身につけて動いてみることで、欲望を可視化します。

②「わたしの拡張」

「LOVE ファッション」の第 1 章（「自然にかえりたい」）について話をしながら、熊本市動植物園で得られる自然素材などを用いたファッションアイテムを作成し、実際に身につけて動いてみることで、自分を装飾します。

3.［ワークショップ］「服をデザインして小物を作ろう」

日時：2024 年 12 月 15 日（日）–2025 年 3 月 2 日（日）10:00–19:30

場所：熊本市現代美術館 アートラボマーケット

プリント生地「100 ネエサン」にペン、テープ、ビーズ、刺繍などでオリジナルのドレスをデザインし、小物を作ります。会期中時間内であればいつでも参加できます。

＊「100 ネエサン」は㈱ルシアンの登録商標です

記者発表

2024 年 12 月 20 日（金）14:30 ～

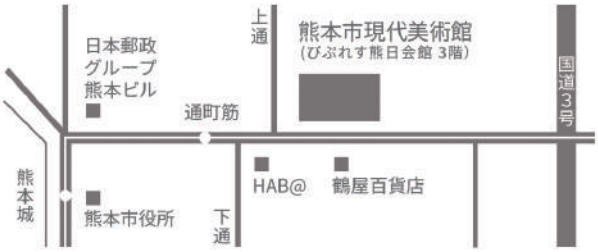
タイムスケジュール
14：00　受付開始
14：30　記者発表、内覧会開始
　　・会場案内（担当学芸員によるツアー形式／約 30 分）
　　・個別取材・撮影タイム（約 60 分）
16：00　会場クローズ
＊記者発表および内覧会へご参加予定の方は事前にご一報ください。

注意事項
＊作品保護のため、会場の半分程度は 50Lx 以下 / キャンドルライト・レベルとなります。
＊作品保護のため、館内では鉛筆をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。（ボールペン･シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。）
＊作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、ご注意をお願いいたします。（ 会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください。）
＊受付にてお名刺を 1 枚頂戴いたします。
　お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。

開催概要

タイトル：LOVE ファッション―私を着がえるとき
会　　期：2024 年 12 月 21 日（土）－3 月 2 日（日）
会　　場：熊本市現代美術館 ギャラリー I・II（熊本市中央区上通町 2-3 びぷれす熊日会館 3 F）
開館時間：10:00－20:00（入場は 19:30 まで）　火曜、年末年始（12 月 30 日から 1 月 3 日）、
　　2 月 12 日（水）休館　＊ただし 2 月 11 日（火・祝）は開館
観覧料　：一般 1,300（1,100）円、シニア 1,000（800）円、学生（高校生以上）800（600）円
　　中学生以下無料
　　＊（　）内は前売／ 20 名以上の団体／電車・バス 1 日乗車券、市電緑のじゅうたんサポーター証、熊本県立美術館友の会証、JAF 会員証をご提示の料金
　　＊各種障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳等）をご提示の方とその付き添い 1 名は無料
　　＊うぇるかむパスポートをご提示の方は無料
　　＊前売り券は 12 月 20 日（金）まで販売
　　＊チケット取扱：熊本市現代美術館
開館時間：10:00 ～ 20:00（入場は 19:30 まで）
主　　催：熊本市現代美術館［熊本市、公益財団法人 熊本市美術文化振興財団］、公益財団法人 京都服飾文化研究財団、熊本日日新聞社
特別協力：株式会社ワコール
協　　力：株式会社七彩、株式会社ルシアン、ヤマト運輸株式会社、吉忠マネキン株式会社
助　　成：公益財団法人大林財団、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団
後　　援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、J:COM 熊本、エフエム熊本、FM791、在日スイス大使館
巡　　回：東京オペラシティ アートギャラリー　2025 年 4 月 16 日（水）－6 月 22 日（日）
特設サイト：https://www.kci.or.jp/love

お問い合わせ先
熊本市現代美術館　学芸担当：池澤　広報担当：曾、里村
〒860-0845　熊本市中央区上通町 2－3　びぷれす熊日会館 3 階
TEL：096-278-7500　　FAX：096-359-7892　E-mail：gamadas@camk.or.jp



・美術館入口（びぷれす熊日会館 3 階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩 1 分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
・「びぷれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。
広報担当からご連絡いたします。
① 掲載媒体・掲載時期
② 希望画像 No.
③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

【使用に際しての注意事項】
＊使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。
　ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。
　第三者への譲渡は禁止します。
＊必ず下記の 作品キャプション・クレジットを明記 してください。
＊トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
＊再放送、転載など 2 次利用をされる場合には、別途申請いただきますようお願い致します。
＊基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で担当までお送りいただきますよう
　お願い致します。
＊掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。
　（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）
＊会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は広報担当までご連絡ください。

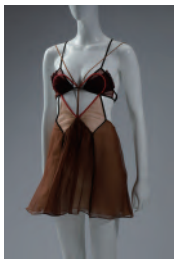
①

②

③

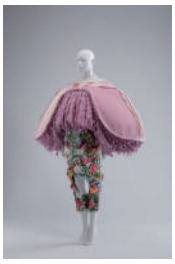
④

⑤


⑥

⑦

⑧


⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

① ドレス（ローブ・ア・ラ・フランセーズ）（部分）　1775 年（テキス タイル 1760 年代）　© 京都服飾文化研究財団　撮影：畠山崇
② ジレ（ウエストコート）　1790 年頃　© 京都服飾文化研究財団　撮影：守屋友樹
③ コルセット　1870 年頃　© 京都服飾文化研究財団　撮影：畠山崇
④ バレンシアガ（クリストバル・バレンシアガ）　イヴニング・ドレス　1951 年冬　© 京都服飾文化研究財団　撮影：畠山崇
⑤ クリスチャン・ディオール（クリスチャン・ディオール）　イヴニング・ドレス　1951 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛
⑥ ネンシ・ドジョカ（ネンシ・ドジョカ）　ドレス　2021 年秋冬　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛
⑦ ゴルチエ・パリ・バイ・サカイ　アンサンブル「I Gaultier under my skin」 2021 年秋冬　© 京都服飾文化研究財団　撮影：守屋友樹
⑧ ゴルチエ・パリ・バイ・サカイ　アンサンブル「I Gaultier under my skin」 2021 年秋冬（部分）　© 京都服飾文化研究財団　撮影：守屋友樹
⑨ コム デ ギャルソン（川久保玲）　トップ、パンツ　2020 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛
⑩ ロエベ（ジョナサン・アンダーソン）　ドレス（部分）　2022 年秋冬　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛
⑪ J・C・ド・カステルバジャック（ジャン＝シャルル・ド・カステルバジャック）　コート　1988 年秋冬　© 京都服飾文化研究財団　撮影：来田猛
⑫ AKI INOMATA　《やどかりに「やど」をわたしてみる –Border–》　2010/2019 年　京都国立近代美術館蔵　©AKI INOMATA
⑬ 松川朋奈　《それでも私が母親であることには変わりない》　2018 年　個人蔵　© Tomona Matsukawa
courtesy of Yuka Tsuruno Art Office　撮影：加藤健
⑭ ヘルムート・ラング（ヘルムート・ラング）　カーディガン　2003 年春夏　© 京都服飾文化研究財団　ヘルムート・ラング寄贈　撮影：守屋友樹
⑮ ル・モニエ　（ジャンヌ・ル・モニエ）　ベレー　1946 年頃　© 京都服飾文化研究財団　撮影：林雅之
⑯ 原田裕規　《Shadowing》　2023 年　© Yuki Harada　撮影：Katsura Muramatsu

LOVE Fashion: In Search of Myself

熊本市現代美術館
2024年12月21日(土)-2025年3月2日(日)

Contemporary Art Museum, Kumamoto
December 21, 2024 – March 2, 2025

LOVE ファッション—私を着がえるとき

［開館時間］午前10時–午後8時（入場は午後7時30分まで）
［休館日］火曜日、年末年始（12月30日から1月3日）、2月12日（水） ＊ただし2月11日（火・祝）は開館

［主催］熊本市現代美術館（熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団）、公益財団法人 京都服飾文化研究財団（KCI）、熊本日日新聞社

Jumpsuit (detail)=Tomo Koizumi Spring/Summer 2020, *Untitled (The Way I Am #181-246)*, 2024 ©Gottingham Image courtesy of The Kyoto Costume Institute and Studio Xxingham
Art Direction: OKAZAKI Mariko (REFLECTA, Inc.) / CG: ETO Ryusei / Prop: GROUP+ISHIGE Kenta+YANG Ikumi

服を着ることは人間の普遍的な営みのひとつです。
そして装いには私たちの内なる欲望が潜み、憧れや熱狂、葛藤や矛盾
を伴って表れることがあります。
お気に入りの服を着たい、あの人のようになりたい、ありのままでいたい、我を忘れたい……。
着る人のさまざまな情熱や願望=「LOVE」を受け止める存在としてのファッション。
そこには万華鏡のようにカラフルな世界が広がっています。
本展では、KCIが所蔵する18世紀から現代までの衣装コレクションを中心に、
人間の根源的な欲望を照射するアート作品とともに、
ファッションとの関わりにみられるさまざまな「LOVE」のかたちについて考えます。
展覧会を通して、私たち人間が服を着ることの意味について再び考えるきっかけとなるでしょう。

［アーティスト］

◎ファッション

Alexander McQueen／Balenciaga／Bottega Veneta／Céline／Chanel／Christian Dior／Comme des Garçons／Comme des Garçons Homme Plus／Gaultier Paris by sacai／Givenchy／Gucci／Helmut Lang／House of Worth／J. C. de Castelbajac／Jil Sander／Junya Watanabe／Kostas Murkudis／Loewe／Louis Vuitton／Madeleine Vionnet／Maison Margiela／Mame Kurogouchi／Nensi Dojaka／Noir Kei Ninomiya／Noritaka Tatehana／Pierre Balmain／Prada／Ryunosukeokazaki／Somarta／Stella McCartney／Thierry Mugler／Tomo Koizumi／Viktor & Rolf／Yohji Yamamoto／Yoshio Kubo　ほか

◎アート

AKI INOMATA、ヴォルフガング・ティルマンス、小谷元彦、笠原恵実子、澤田知子、シルヴィ・フルーリー、原田裕規、松川朋奈、横山奈美

［主な関連イベント］

◎トーク

「影としての私自身／影を追う旅について」
日時：2024年12月21日（土）午後2時–午後3時30分　場所：熊本市現代美術館 ホームギャラリー
出演：原田裕規（出品作家）

◎ワークショップ　※要事前申込

①「わたしの解剖」　日時：2025年2月8日（土）午後1時30分–午後3時30分　場所：熊本市現代美術館
②「わたしの拡張」　日時：2025年2月15日（土）午後1時30分–午後3時30分　場所：熊本市動植物園
講師：藤谷香子（衣裳家）

◎スイーツ&カクテル

ホテル日航熊本ティー&カクテルラウンジ「ファウンテン」（当館同ビル1F）では、
「LOVEファッション」からインスパイアされた特別なケーキセットとカクテルをご提供します。

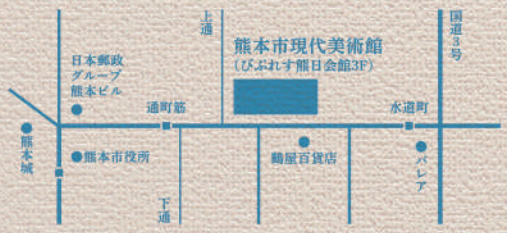
＊各種イベントの参加費・申込方法等の詳細や、その他に予定しているイベントの最新情報については、当館ホームページまたはSNSをご確認ください。

［観覧料］

一般：1,300円（1,100円）、シニア（65歳以上）：1,000円（800円）、
学生（高校生以上）：800円（600円）、中学生以下：無料
＊（　）内は前売り／20名以上の団体／電車・バス1日乗車券等をご提示の料金
＊各種障害者手帳等をご提示の方とその付き添い1名は無料
＊うぇるかむパスポートをご提示の方は無料
＊前売券は12月20日（金）まで熊本市現代美術館にて販売

［アクセス］

熊本市現代美術館　CAMK | Contemporary Art Museum, Kumamoto
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぷれす熊日会館3階
TEL：096-278-7500　www.camk.jp



◯JR熊本駅から市電「健軍町」行（約15分）
◯JR新水前寺駅から市電「熊本駅」「上熊本駅」行（約10分）
◯阿蘇くまもと空港からリムジンバス（約40分）
いずれも「通町筋（とおりちょうすじ）」下車すぐ

［特別協力］株式会社ワコール
［協力］株式会社七彩、株式会社ルシアン、ヤマト運輸株式会社、吉忠マネキン株式会社
［助成］公益財団法人大林財団、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団
［後援］熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、NHK熊本放送局、J:COM熊本、エフエム熊本、FM791、在日スイス大使館

［巡回］本展は東京オペラシティ アートギャラリー（会期：2025年4月16日（水）–6月22日（日））へも巡回予定

ドレス（ローブ・ア・ラ・フランセーズ）（部分）／フランス／1775年（テキスタイル：1760年代）／
© 京都服飾文化研究財団／撮影：畠山崇

Loewe（ジョナサン・アンダーソン）／ドレス（部分）／2022年秋冬／
© 京都服飾文化研究財団／撮影：来田猛

Balenciaga（クリストバル・バレンシアガ）／イヴニング・ドレス／1951年冬／
© 京都服飾文化研究財団／撮影：畠山崇

AKI INOMATA／《やどかりに「やど」をわたしてみる–Border–（ニューヨーク）》／
2010年／インクジェット・プリント／個人蔵／© AKI INOMATA